

GUIDEBOOK

北海道大学総合博物館
ミュージアムマイスター
認定コースのご案内

2019年度



www.museum.hokudai.ac.jp

The Hokkaido University Museum



ミュージアムマイスター 認定コースの概要

「ミュージアムマイスター認定コース」とは、課題探究能力、協調性と自主性を備え、問題解決能力、コミュニケーション能力、マネジメント能力を持ち、自己評価の視点を身に付けた北大生を認定する教育システムです。シラバスの中から、北大総合博物館が認定した科目を履修し、さらに、博物館が主催するプロジェクトや講座に参加して、必要なクレジット数を取得し、一定基準の成績を修め、プレゼンテーションを含む面談をクリアした学生を、北大総合博物館長が「ミュージアムマイスター」として認定します。

●受講方法

下記の通り科目種別(A～D)の手続きに従って、受講申請を行ってください。大学院生が学芸員養成課程関連科目以外のABの科目を聴講希望する場合は、まず、ミュージアムマイスター事務局にお問い合わせください。

A 全学教育科目 (総合科目、一般教育演習、主題別科目)

高等教育推進機構・教務課に、指定の期日までに履修届を提出してください。

B 学部専門科目

他学部学生が履修する場合は、担当教員にミュージアムマイスター認定コースの一環として参加する旨をご連絡ください。(履修は所定の申請を行えば認められますが、卒業認定に関わるかは学部によって異なります。マイスターコースのクレジットは取得することができます。)

C 大学院専門科目・大学院共通授業科目

学部学生も3年生以上は履修可能です。その場合は、担当教員にミュージアムマイスター認定コースの一環として参加する希望を伝え、了承を得て、ミュージアムマイスター事務局にご連絡ください。(マイスターコースのクレジットは取得できますが、学部学生は単位を取得できないため、履修届を提出する必要はありません。)

D オフカリキュラム・プログラム

通常の授業枠を超えて博物館が独自に開講するプログラムです。内容は、企画展の展示解説やセミナー運営など様々です。受講生は自分の空き時間を利用してプログラムに参加します。博物館独自のプログラムのため、関連情報はシラバスには掲載されていません。卒業認定に関わる単位は取得できませんが、マイスターコースのクレジットは取得できます。受講生募集は、博物館ウェブサイトや構内ポスターで前期・後期に各1回行います。今後の予定などはミュージアムマイスター事務局までお問い合わせください。

◎クレジットについて

クレジットはミュージアムマイスター認定コース独自のものです。大学院授業やオフカリキュラムのプロジェクトで認定されるクレジットは、卒業認定に関わる単位とは異なります。また「ミュージアムマイスター認定コース」に必要な科目と「学芸員資格取得」に必要な単位は異なります。

●認定までの流れ

事務局に問い合わせ
開講科目の確認・登録手続き
(1年次より随時受付可)



全履修科目・クレジット数の確認
上記の各科目4クレジット、
合計12クレジット以上取得

認定条件・基準GPAの確認
学部生=当該年度学生の学年平均点以上
大学院生=2.8以上、秀1つ以上(2014年度以前の新生)
3.0以上、AまたはA+1つ以上(2015年度以降の新生)

事務局に認定申請
成績証明書、修了認定申請書*を持参
(3年次以降の申請が望ましい)

書類審査・プレゼンテーションを含む面談

認定

* 修了認定申請書は「ミュージアムマイスター 修了認定申請書」で検索、もしくはミュージアムマイスター事務局までお越しください。

開講科目一覧

●下記の科目情報は平成30年3月1日現在のものです。変更になる場合もありますので、開講学期・曜日・時間についてはシラバスや各掲示板も必ず確認してください。

科目種別	授業名	開講時期	曜日(時限)	責任教員	クレジット数
A 全学教育科目(総合科目)	[環境と人間] 生物の多様性	1	水曜(5)	柁原 宏	2
A 全学教育科目(総合科目)	[環境と人間] フィールド科学への招待	1	金曜(5)	四ツ倉 典滋	2
A 全学教育科目(総合科目)	[環境と人間] 「モノ」+「コト」+「ヒト」=北大総合博物館	1	木曜(5)	江田 真毅	2
A 全学教育科目(総合科目)	[人間と文化] アイヌ・先住民研究の現在	2	木曜(5)	山崎 幸治	2
A 全学教育科目(一般教育演習)	北大エコキャンパス探求	1	金曜(5)	大原 昌宏	2
B 文学部専門科目	博物館概論	1	水曜(1)	佐々木 亨	2
B 文学部専門科目	博物館教育論	1	木曜(1)	湯浅 万紀子	2
B 文学部専門科目	博物館資料論	1	金曜(5)	加藤 克	2
B 文学部専門科目	博物館経営論	2	火曜(5)	佐々木 亨	2
B 文学部専門科目	博物館情報・メディア論	1	水曜(5)	山下 俊介	2
B 文学部専門科目	博物館展示論	2	金曜(5)	山崎 幸治	2
B 文学部専門科目	博物館資料保存論	1	火曜(5)	鈴木 幸人	2
A 全学教育科目(総合科目)	[環境と人間] ヒゲマ学入門	2	木曜(5)	増田 隆一	2
A 全学教育科目(一般教育演習)	蛙学への招待	1	水曜(5)	鈴木 誠	2
A 全学教育科目(一般教育演習)	フィールド体験型プログラム 人間と環境科学—[1]	1	集中	日浦 勉	2
A 全学教育科目(一般教育演習)	フィールド体験型プログラム 人間と環境科学—[2]	2	集中	日浦 勉	2
A 全学教育科目(一般教育演習)	International Archaeological Field School in Rebun Island	1	集中	加藤 博文	2
A 全学教育科目(主題別科目)	[芸術と文学] 学芸員から見た美術の世界	1	月曜(5)	吉崎 元章	2
A 全学教育科目(主題別科目)	[芸術と文学] 札幌と音楽文化	2	木曜(5)	三浦 洋	2
A 全学教育科目(主題別科目)	[芸術と文学] 美術館という現場	1	水曜(2)	北村 清彦	2
B 水産学部専門科目	水圏生物学	春	火曜(3~4)	河合 俊郎	2
B 水産学部専門科目	魚類学	春	月曜(1) 水曜(2)	今村 央	2
B 水産学部専門科目	魚病学	夏	火曜(1) 金曜(3)	笠井 久会	2
B 水産学部専門科目	水族館学	春	木曜(3~4)	田城 文人	2
C 文学研究科専門科目	北方文化論特殊講義: ミュージアムのマネージメント [19]	2	火曜(3)	佐々木 亨	2
C 大学院共通授業科目	博物館学特別講義Ⅰ: 学術標本・資料学	秋・冬	金曜(5)	山下 俊介	2
D 総合博物館・オフカリキュラム	バラタクソノミスト養成講座	—	随時*	—	0.5~1
C 理学院専門科目	博物館コミュニケーション特論(学生発案型プロジェクトの企画・運営・評価)	1	木曜(4)	湯浅 万紀子	2
C 大学院共通授業科目	博物館コミュニケーション特論Ⅰ 学生発案型プロジェクトの企画・運営・評価	春・夏	木曜(4)	湯浅 万紀子	2
C 理学院専門科目	博物館コミュニケーション特論(ミュージアムグッズの開発と評価)	2	水曜(4)	湯浅 万紀子	2
C 大学院共通授業科目	博物館コミュニケーション特論Ⅲ ミュージアムグッズの開発と評価	秋・冬	水曜(4)	湯浅 万紀子	2
C 理学院専門科目	理科教育課程マネジメント特論	2	金曜(4)	山田 邦雅	2
D 総合博物館・オフカリキュラム	学生参加プロジェクト(展示制作、展示解説など)	—	随時*	湯浅 万紀子	1~2
D 総合博物館・オフカリキュラム	卒論ポスター発表会	—	1月中旬~ 3月上旬	湯浅 万紀子	2

* 受講者募集の案内は、北大総合博物館ウェブサイトに掲載されます

導入科目

環境・人間・文化に関する基礎知識を学習する科目や導入的なフィールド体験型科目。博物館の存在意義や活動についての基礎知識を学習する科目。



全学教育科目(総合科目)

- ・[環境と人間] 生物の多様性
- ・[環境と人間] フィールド科学への招待
- ・[環境と人間] 「モノ」+「コト」+「ヒト」=北大総合博物館
- ・[人間と文化] アイヌ・先住民研究の現在

全学教育科目(一般教育演習)

- ・北大エコキャンパス探求

文学部専門科目

- ・博物館概論
- ・博物館教育論
- ・博物館資料論
- ・博物館経営論
- ・博物館情報・メディア論
- ・博物館展示論
- ・博物館資料保存論

ステップアップ科目

実物資料の扱い方やフィールドワークの方法を学習する科目や講座。博物館の活動と運営について理解を深める科目。



授業紹介

●水族館学

水族館をめぐる学問分野は非常に広範囲にわたっています。水産学、動物学、水質化学などの自然科学と、博物館学、経営学、教育学などの人文科学を総合的に理解することで、水族館とは何かということを学習します。また、水族館で実際にやっている研究活動や日常の仕事について、水族館の職員になるための過程についても紹介します。

本講義は、実際に水族館で活躍している方々が講師を担当します。今年度は鴨川シーワールド国際海洋生物研究所所長の荒井一利氏、大阪海遊館館長の西田清徳氏、沖縄美ら島財団水族館事業部統括の佐藤圭一氏、おたる水族館海獣飼育課係長の三宅教平氏を予定しています。

水族館職員を目指す学生にとっては、水族館の職員と接する機会ができるまたとないチャンスです。



●博物館学特別講義Ⅰ：学術標本・資料学

「博物館学特別講義Ⅰ」では各専門分野における標本・資料の意味、取り扱い方を理解します。具体的には、標本・資料の採取・収集法、保管法、利活用技法、データ整理・公開法などについての知識や考え方を習得します。各分野の教員が交替りで講義をするオムニバス形式の授業で、自然史系として1)海藻、2)昆虫、3)昆虫データベース、4)魚類、5)哺乳類・鳥類、6)古生物、7)岩石・鉱物、8)分子系統進化を、文化史系として9)動物考古学、10)考古学、11)言語学、12)民族学、13)標本史、14)映像・科学技術史を取り扱います。学芸員資格のアドバンスコースとして位置付けていますが、同時に自然史・文化史を対象とした各研究分野への理解を深め、文理を融合した広い視野を持った教養人としての資質も身につけます。



全学教育科目(総合科目)

- ・[環境と人間] ヒグマ学入門

全学教育科目(一般教育演習)

- ・蛙学への招待
- ・フィールド体験型プログラム 一人間と環境科学Ⅰ
- ・フィールド体験型プログラム 一人間と環境科学Ⅱ
- ・International Archaeological Field School in Rebus Island

全学教育科目(主題別科目)

- ・[芸術と文学] 学芸員から見た美術の世界
- ・[芸術と文学] 札幌と音楽文化
- ・[芸術と文学] 美術館という現場

水産学部専門科目

- ・水圏生物学
- ・魚類学
- ・魚病学
- ・水族館学

文学研究科専門科目

- ・北方文化論特殊講義：ミュージアムのマネジメント [19]

大学院共通授業科目

- ・博物館学特別講義Ⅰ：学術標本・資料学

総合博物館・オフカリキュラム

- ・パラタクソノミスト養成講座

社会体験型科目

学生が博物館での活動を通じて社会とつながる実践と評価を行う科目やプロジェクト。博物館の展示や場を活用したプロジェクトの企画・運営・評価に参加したり、学生の研究成果を市民に向けて発信して意見交換する。



理学院専門科目

- ・博物館コミュニケーション特論 (学生発案型プロジェクトの企画・運営・評価)
- ・博物館コミュニケーション特論 (ミュージアムグッズの開発と評価)
- ・理科教育課程マネジメント特論

大学院共通授業科目

- ・博物館コミュニケーション特論Ⅰ 学生発案型プロジェクトの企画・運営・評価
- ・博物館コミュニケーション特論Ⅲ ミュージアムグッズの開発と評価

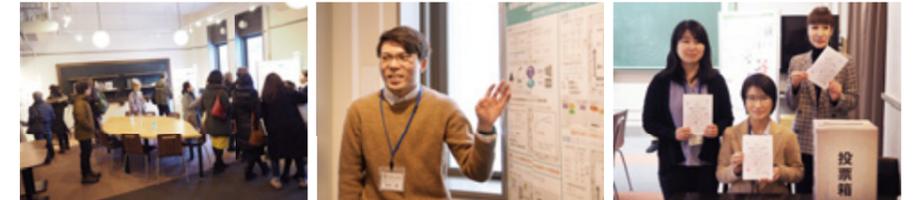
総合博物館・オフカリキュラム

- ・学生参加プロジェクト (展示制作、展示解説など)
- ・卒論ポスター発表会

授業紹介

●卒論ポスター発表会

北海道大学を卒業するさまざまな学部4年生が、4年間の研究の成果を大きな1枚のポスターにまとめて発表します。学会での発表とは異なり、市民や他分野の学生にも理解できるようなポスターを制作し、わかりやすく説明することが求められます。中間発表会を複数回行い、教職員の指導を受け、発表会に臨みます。



参加者の声

◎専門用語を極力少なくして明確に説明するのが難しかったです。しかし、様々な分野の同級生を初め、先生方や後輩、研究室の皆さんにアドバイスをいただき、ポスターを改訂し、研究についても更に考察を深められました。研究の魅力や新規性を様々な人に伝えるという貴重な経験ができたことを嬉しく思うと共に、この経験を今後の研究や私生活にも活かしていきたいです。

◎研究内容への考察を深めたいと考え、参加しました。私は学部2年生の時に発表会の運営メンバーを務め、一生懸命発表される先輩方の姿に感銘を受けたことから、

発表することは一つの夢でした。他学部の学生と研究を紹介し合ったり、市民の方からアドバイスをいただき、新しい視点を見つけれられたのは貴重な収穫でした。

◎専門用語を平易で適切な言葉に言い換えたり、説明する情報を取捨選択するのは難しかったです。発表では、話の流れにメリハリを付けたり、課題を最初に挙げて一緒に謎解きをしていくように留意しました。来場者から鋭い質問を多くいただき、良い刺激になりました。研究の進め方について考える良い機会になり、ここで得た知見を活かして研究を続けたいです。

●学生参加プロジェクト

市民に向けた大学博物館関連プロジェクトの企画・制作・運営・評価などに参加します。学生だけではなく、博物館教職員やボランティアと協働することで、コミュニケーション能力やマネジメント能力を養うことを目的としています。授業や普段の学生生活では味わうことのできない、貴重な社会体験の場です。

過去のプロジェクト：企画展展示解説／卒論ポスター発表会の運営 他多数



受講者の声

「視ることを通して」展示解説

◎解説の際は来館者と対話をするように意識し、来館者の背景を知ることでより近い距離で解説ができ、理解を確かめながら対応することができました。展示解説は、一方向になりがちな展示を対話型の二方向にする手段の一つとして有用であり、人と人との結びつきが博物館活動を支えているのだと感じました。自分から来館者へ新たな価値を提供するだけでなく、来館者から新たに学ぶことも多かったです。

「宇宙の4Dシアター」プログラムの運営

◎4Dシアター運営活動のなかで意見が分かれることもありますが、コミュニケーションを尽くして合意点を見出すことが大切です。そのプロセス自体が私にとってはこのプログラムでの一番の学びでした。また、立場や年齢の違う多様な人々の参加によって博物館を盛り立てていくことが重要だと考えることができました。

卒業生
マイスターからの
message

北大総合博物館との出会いは高校生の頃、母とマンモスのはく製を見に訪れた時でした。もともと博物館に興味があったこと、説明して下さった展示解説員の姿が強く印象に残っていたことから、「学術展示の面白さを伝えられるようになりたい」とミュージアムマイスターコースの受講を決めました。

特に印象に残っているのは、マイスター認定後に開催されたノーベル賞特別展示です。宮浦憲夫先生へのインタビューや展示解説など、博物館の運営に携わることができたのは貴重な経験でした。また、先生方や他のマイスターのアドバイスから、研究内容を分かりやすく伝える上で、相手の立場を考えることの大切さを学びました。

私は現在、企業の研究所に勤めています。社内でマイスターの活動を報告する機会があったのですが、「学生時代に面白い経験を積んでいる」、「説明が分かりやすく、学んだことが実践できていると感じられた」などのコメントをいただきました。企業ではグループで研究することが大半であるため、コミュニケーションをとることは欠かせません。また、お客様に対して研究内容を説明する機会も増えます。改めて振り返ると、マイスターコースでの活動を通して社会で必要とされるスキルが身につく、大いに活かされていると感じます。

マイスターコースでは専門教育だけでは得られない経験ができ、社会に出てからの自分の強みにもなります。興味があれば、ぜひ挑戦してほしいと思います。

倉
千晴

株式会社神戸製鋼所
神戸技術総合研究所 技術開発本部
工学部2年次(2010年度)に
マイスターに認定



新
マイスターからの
message

杉谷
紬

文学部3年次(2017年度)に
マイスターに認定



私は入学のオリエンテーションの際に配布された資料でこのコースの存在を知りました。当時は学芸員に関心を持ちながらも具体的に何をすべきか分からず、このコースが学芸員資格取得授業をクレジットの対象に含んでいるのを見て、何か役に立つかもしれないという思いで登録を決めました。登録後は先生方や博物館スタッフのご指導のもと、博物館のイベントの運営やミュージアムグッズ制作などに携わりました。重要な役目であるからこそ、メンバーと連絡を取ったり、役割を分担したりするなどの当たり前のようなこと一つ一つに責任が伴うことの厳しさ、そしてやりがいを感じました。クレジットを集めるのが大変そうだという意見を時折耳にしますが、登録するだけで博物館の活動の情報を入手できたり、大学院生の授業を紹介していただくといったメリットがあります。私にとって大きな成長の舞台となったこのコースが、皆さんにとってもそうなることを願っています。

徳丸
沙耶夏

理学院修士1年次(2017年度)に
マイスターに認定



博物館学を学ぶなら、北大総合博物館でできる限りたくさん活動したいと思い、受講を決めました。自ら考え、行動することが必要とされるミュージアムマイスターコースは、これまでに経験したことがないことの連続でした。例えば、学生参加プロジェクトの展示解説では、初めて多くの来館者と交流しました。来館者の年齢や住んでいる地域も様々で、どのようにすれば分かりやすく伝えられるのか試行錯誤した記憶があります。同時に、私が解説したことを、友人や家族に楽しそうに教えている姿を何度も目にし、人を介することで展示の理解が進んでいくことに気付きました。このような経験が、博物館と来館者をつなぐ展示解説者の育成を行う自分自身の修士研究のきっかけとなりました。

私にはここには書ききれないほど、マイスターコースを受講したからこそできた経験があります。「ミュージアムマイスター」に少しでも興味があれば、ぜひ飛び込んで、経験してみてください。

増田
彩乃

株式会社丹青社
デザインセンター プランニング局
理学院修士1年次(2016年度)に
マイスターに認定



私はマイスターコースを通して、北大総合博物館を自分の夢に続く修行の場として楽しむことができました。それまで未知の分野だった植物分野の企画展で展示解説を行ったり、得意なイラストを活かしてミュージアムグッズをデザインするなど、マイスターコースの授業やプロジェクトは自分が活躍できる場を広げる挑戦の機会でした。その挑戦を後押ししてくれたのは、専攻分野の異なる学生仲間、暖かく応援してくれる来館者やボランティア、教職員など、多様な立場の人々との出会いや交流です。自由な発想で博物館を楽しむ人々の存在は、私の博物館に対する考え方をより柔軟なものに変え、修士研究や就職活動にもつながる刺激となりました。

現在、空間デザインを手がける会社で、博物館や公共施設などを企画するプランナーとして働いています。業務では、空間や展示の計画だけでなく、活動や運営の提案をすることもあり、人々に親しまれる場として成長する施設の未来を描く創造力が求められます。その際、自らが活動の主体となって北大総合博物館で過ごした経験は、様々な課題を抱える博物館や公共施設を理解するための一つの指針となっています。この経験をお守りに、これからもプランナーとしてミュージアムへの挑戦を続けていきたいと考えています。

みなさんにも、ぜひ自分だけの「博物館の楽しみ方」を見つけてほしいと思います。その時、マイスターコースは一つのヒントになるかもしれません。

森本
智郎

理学部3年次(2017年度)に
マイスターに認定



私にとって博物館は知的好奇心を刺激し、ワクワクさせてくれる場所です。高校生の頃から北大総合博物館で活動できることをとても魅力的だと思っていたので、入学してすぐにマイスターコースを受講しました。

社会体験型科目で1年次に土曜市民セミナーの運営を、2年次には2回の企画展示の解説を、3年次に卒論ポスター発表会の運営を行いました。このうち特に印象に残っているプロジェクトは土曜市民セミナーの運営です。広報用ポスターの制作や当日の司会進行を通して「伝える」ことの大切さ、同時に難しさを、先生方や博物館スタッフの方々と一緒にじっくりと考える機会を得られたことは、その後のプロジェクトのみならず、専門科目や研究室での活動の大きな糧になっています。

マイスターコースでは幅広い視野をもった考え方を養うことができます。学部で専門性を高めると同時に、多様な分野が混じり合う博物館ならではの学びを、あなたにも楽しんでほしいです。

登録申し込み について

北大総合博物館のウェブサイト
(<https://www.museum.hokudai.ac.jp/education/museummeister/>)
からダウンロードし、以下の記入例を参考にして、
必要事項を記入してください。

※注意事項

黒のボールペン、またはサインペンではっきりと記入してください。
書き間違い、記入漏れ等がないか、もう一度しっかりと見直してください。

科目名の左側の欄に、該当する
マークを記入してください。
該当する科目がない場合には、
未記入でも構いません。

既に履修した科目=○
現在履修している科目=○

メールアドレスには、なるべく
PCメールのアドレスを記入して
ください。メールアドレスは、ハイ
フン、アンダーバー、ドット等を
はっきりと記入してください。



ミュージアムマイスター認定コース 登録申込書

ミュージアムマイスター事務局 行 整理番号 _____

私は、ミュージアムマイスター認定コースに下記の通り登録を申し込みます。

フリガナ <u>ホク ダイ タ ロウ</u> 氏名 北大 太郎 〒 <u>060-0810</u> フリガナ <u>サツボロシ キタク</u> 札幌市北区 連絡先住所 <u>キタ10ジョウ ニシ8チヨウメ ホッカイドウダイガク</u> 北10条西8丁目 北海道大学	申し込み年月日 2019年 4月 20日 生年月日 西暦 2000年 12月 1日 性別 <input checked="" type="radio"/> 男 ・ 女 学部・学年 文学部 1年 学生番号 00000000 電話番号 011-706-4704 Eメールアドレス taro@museum.hokudai.ac.jp
---	--

履修科目について リーフレットを参考に履修科目の左側の欄に、該当するマークを記入してください。
既に履修した科目=○ 現在履修している科目=○

導入科目	ステップアップ科目	社会体験型科目
<input type="checkbox"/> [環境と人間] 生物の多様性	<input checked="" type="checkbox"/> [環境と人間] ヒグマ学入門	<input type="checkbox"/> 博物館コミュニケーション特論 (学生発表型プロジェクトの企画・運営・評価)
<input type="checkbox"/> [環境と人間] フィールド科学への招待	<input type="checkbox"/> 蛙学への招待	<input type="checkbox"/> 博物館コミュニケーション特論 I 学生発表型プロジェクトの企画・運営・評価
<input type="checkbox"/> [環境と人間] 「モノ」+「コト」+「ヒト」=北大総合博物館	<input type="checkbox"/> フィールド体験型プログラム-人間と環境科学- [1]	<input type="checkbox"/> 博物館コミュニケーション特論 II (ミュージアムグッズの開発と評価)
<input type="checkbox"/> [人間と文化] アイス-先住民研究の現在	<input type="checkbox"/> フィールド体験型プログラム-人間と環境科学- [2]	<input type="checkbox"/> 博物館コミュニケーション特論 III ミュージアムグッズの開発と評価
<input type="checkbox"/> 北大エコキャンパス探求	<input type="checkbox"/> International Archaeological Field School in Rebun Island	<input type="checkbox"/> 博物館コミュニケーション特論 IV 学生参加プロジェクト()
<input type="checkbox"/> 博物館概論	<input type="checkbox"/> [芸術と文学] 学芸員から見た美術の世界	<input type="checkbox"/> 卒論ポスター発表会
<input type="checkbox"/> 博物館教育論	<input type="checkbox"/> [芸術と文学] 札幌と音楽文化	
<input type="checkbox"/> 博物館資料論	<input type="checkbox"/> [芸術と文学] 美術館という現場	
<input type="checkbox"/> 博物館経営論	<input checked="" type="checkbox"/> 水圏生物学	
<input type="checkbox"/> 博物館情報・メディア論	<input type="checkbox"/> 魚類学	
<input type="checkbox"/> 博物館展示論	<input type="checkbox"/> 魚病学	
<input type="checkbox"/> 博物館資料保存論	<input type="checkbox"/> 水圏学	
<input checked="" type="checkbox"/> []	<input type="checkbox"/> 北方文化論特設講座 ミュージアムのマネージメント [19]	
	<input type="checkbox"/> 博物館学特別講義 I: 学術標本-資料学	
	<input type="checkbox"/> パラタクソノミスト養成講座	

システム管理者記入欄 認証年月日 西暦 年 月 日 登録番号



北海道大学総合博物館
ミュージアムマイスター事務局

〒060-0810 札幌市北区北10条西8丁目
北海道大学総合博物館2階 研究支援推進員室
E-mail: suishin@museum.hokudai.ac.jp
TEL & FAX: 011-706-4704 内線(4704)
開室日時: 火~金 10:00~16:00

必要事項を記入した登録申込書を持参のうえ、
ミュージアムマイスター事務局に提出し、登録手続きを行ってください。